

財務状況把握の結果概要

関東財務局 横浜財務事務所財務課

(対象年度:平成28年度)

◆対象団体

| | |
|-------|-----|
| 都道府県名 | 団体名 |
| 神奈川県 | 山北町 |

◆基本情報

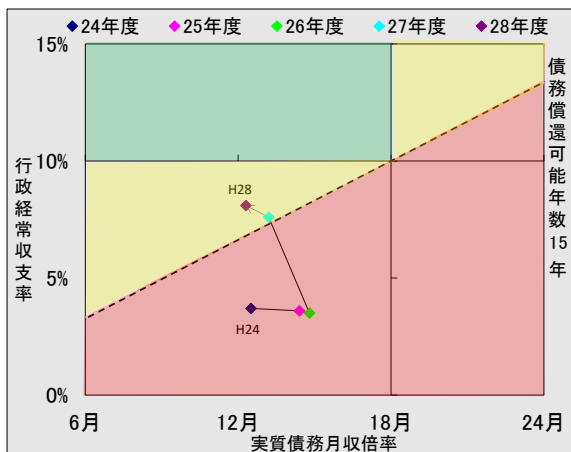
| | | | |
|----------------------|--------|---------------|-------|
| 財政力指数 | 0.63 | 標準財政規模(百万円) | 3,337 |
| H29.1.1人口(人) | 10,842 | 平成28年度職員数(人) | 141 |
| 面積(Km ²) | 224.61 | 人口千人当たり職員数(人) | 13.0 |

(単位:千人)

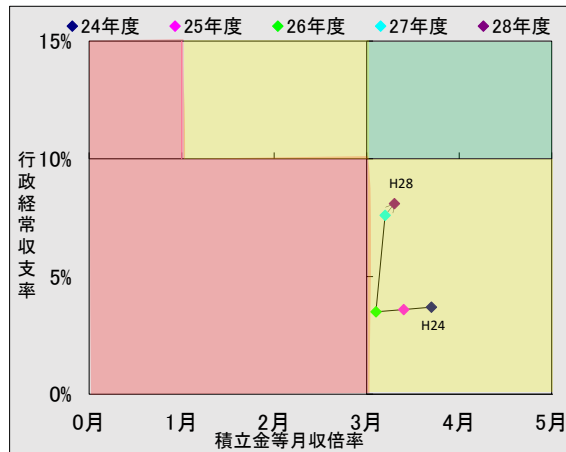
| | 総人口 | 年齢別人口構成 | | | | 産業別人口構成 | | | | | | | |
|-------|--------|-----------------|-------|---------------------|-------|-----------------|-------|---------------|------|---------------|-------|---------------|-------|
| | | 年少人口 (15歳未満) | 構成比 | 生産年齢人口 (15歳~64歳) | 構成比 | 老年人口 (65歳以上) | 構成比 | 第一次産業 就業人口 | 構成比 | 第二次産業 就業人口 | 構成比 | 第三次産業 就業人口 | 構成比 |
| 17年国調 | 12.7 | 1.5 | 11.9% | 8.0 | 63.4% | 3.1 | 24.7% | 0.4 | 6.8% | 2.0 | 31.5% | 3.9 | 60.8% |
| 22年国調 | 11.8 | 1.2 | 10.2% | 7.2 | 61.5% | 3.3 | 28.3% | 0.4 | 6.3% | 1.8 | 30.6% | 3.6 | 63.1% |
| 27年国調 | 10.7 | 1.0 | 9.6% | 6.0 | 55.6% | 3.7 | 34.8% | 0.4 | 6.8% | 1.5 | 29.4% | 3.3 | 63.7% |
| 27年国調 | 全国平均 | | 12.6% | | 60.7% | | 26.6% | | 4.0% | | 25.0% | | 71.0% |
| | 神奈川県平均 | | 12.6% | | 63.5% | | 23.9% | | 0.9% | | 22.4% | | 76.7% |

◆ヒアリング等の結果概要

債務償還能力



資金繰り状況



※収支計画最終年度を◆で表記している

| | | | |
|--------------|----------------------|--------------|---------------|
| 債務高水準 | 積立低水準 | 収支低水準 | 該当なし ✓ |
| 【要因】 | 【要因】 | 【要因】 | |
| 建設債 | 建設投資目的の取崩し | 地方税の減少 | |
| 実質的な債務 | 債務負担行為に基づく支出予定額 | 人件費の増加 | |
| | 公営企業会計等の資金不足額 | 物件費の増加 | |
| | 土地開発公社に係る普通会計の負担見込額 | 扶助費の増加 | |
| | 第三セクター等に係る普通会計の負担見込額 | 補助費等・繰出金の増加 | |
| その他 | その他 | その他 | |
| その他 | | | |

◆財務指標の経年推移

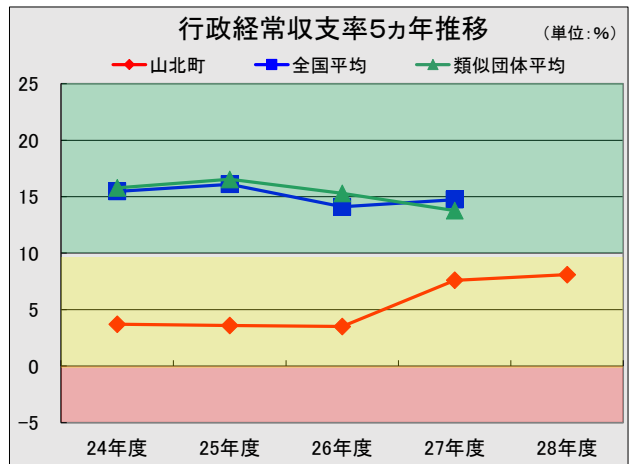
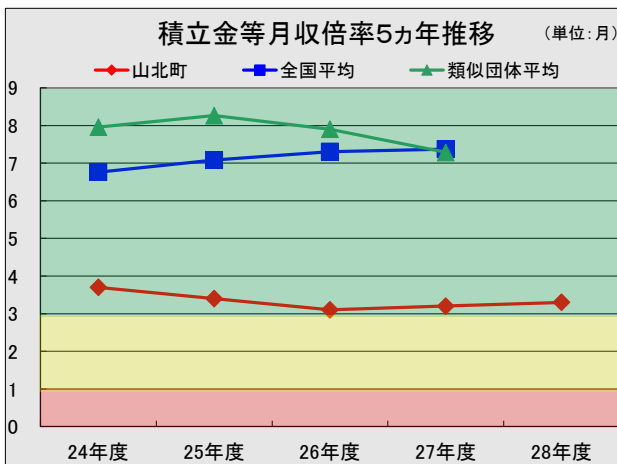
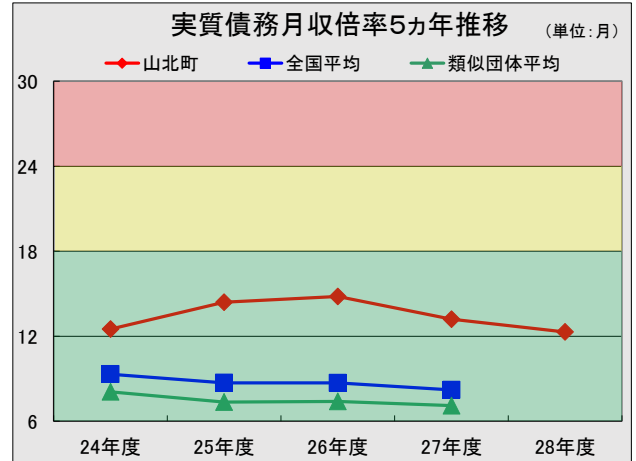
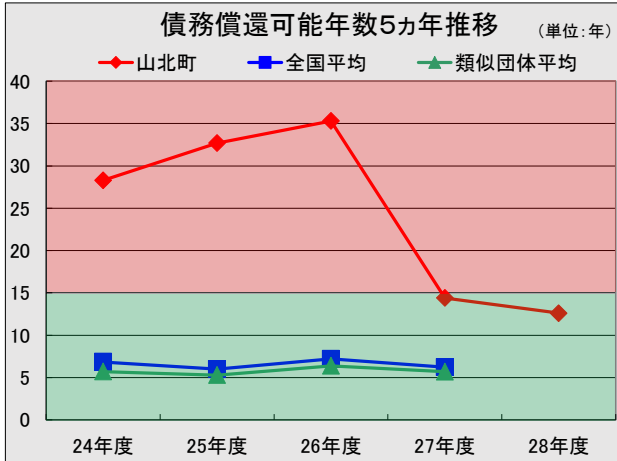
<財務指標>

(27年度)

| |
|--------|
| 類似団体区分 |
| 町村Ⅲ-2 |

| | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 類似団体 平均値 | 全国 平均値 | (参考) 神奈川県 平均値 |
|----------|-------|-------|-------|-------|--------------|-------------|-----------|---------------------|
| 債務償還可能年数 | 28.3年 | 32.7年 | 35.3年 | 14.4年 | 12.6年 | 5.7年 | 6.2年 | 11.1年 |
| 実質債務月収倍率 | 12.5月 | 14.4月 | 14.8月 | 13.2月 | 12.3月 | 7.1月 | 8.2月 | 9.9月 |
| 積立金等月収倍率 | 3.7月 | 3.4月 | 3.1月 | 3.2月 | 3.3月 | 7.3月 | 7.4月 | 2.8月 |
| 行政経常収支率 | 3.7% | 3.6% | 3.5% | 7.6% | 8.1% | 13.8% | 14.7% | 8.8% |

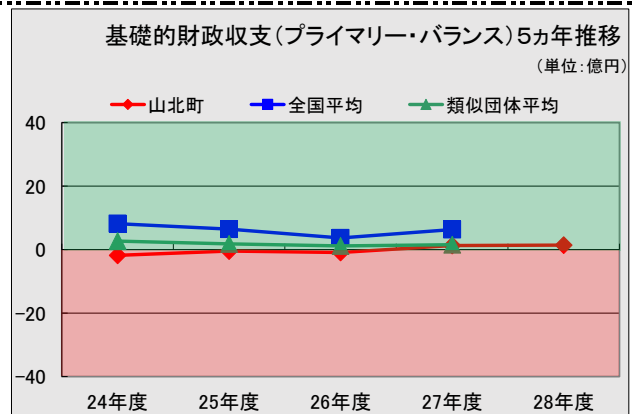
※平均値は、いずれも27年度



<参考指標>

(28年度)

| 健全化判断比率 | 山北町 | 早期健全化基準 | 財政再生基準 |
|----------|--------------|---------|--------|
| 実質赤字比率 | - | 15.00% | 20.00% |
| 連結実質赤字比率 | - | 20.00% | 30.00% |
| 実質公債費比率 | 7.1% | 25.0% | 35.0% |
| 将来負担比率 | 75.0% | 350.0% | - |



※ 基礎的財政収支 = [歳入 - (地方債 + 繰越金 + 基金取崩)] - [歳出 - (公債費 + 基金積立)]

※ 基金は財政調整基金及び減債基金 (基金積立には決算剰余金処分による積立額を含まない。)

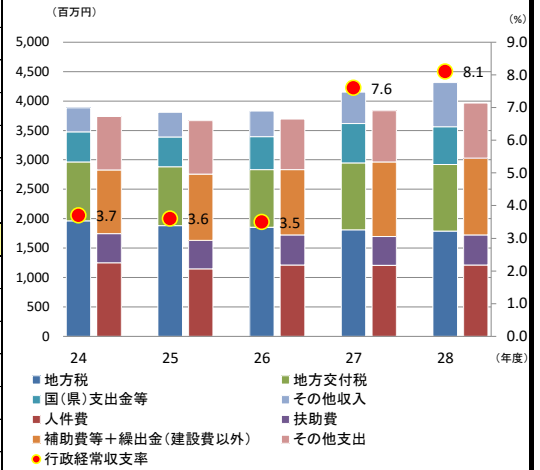
※1. 債務償還可能年数について、分子(実質債務)が0以下となる場合は「0.0年」を表示する。分子(実質債務)が0より大きく、かつ分母(行政経常収支)が0以下となる場合は「空文字」として表示する。
 ※2. 右上部表中の平均値については、各団体の27年度計数を単純平均したものである。
 ※3. 上記グラフ中の「類似団体平均」の類似区分については、27年度の類似区分による。
 ※4. 平均値の算出において、債務償還可能年数と実質債務月収倍率における分子(実質債務)がマイナスの場合には「0(年・月)」として単純平均している。

◆行政キャッシュフロー計算書

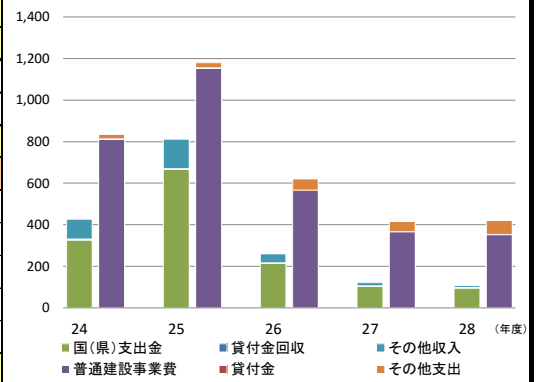
(百万円)

| | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 構成比 | 類似団体平均値 (27年度) | 構成比 |
|---------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|----------------|-------------------|----------------|
| ■行政活動の部■ | | | | | | | | |
| 地方税 | 1,963 | 1,884 | 1,853 | 1,811 | 1,788 | 41.5% | 1,554 | 26.6% |
| 地方譲与税・交付金 | 191 | 198 | 208 | 297 | 263 | 6.1% | 349 | 6.0% |
| 地方交付税 | 1,002 | 998 | 984 | 1,138 | 1,131 | 26.2% | 2,409 | 41.3% |
| 国(県)支出金等 | 512 | 507 | 557 | 666 | 643 | 14.9% | 1,089 | 18.7% |
| 分担金及び負担金・寄附金 | 32 | 28 | 32 | 39 | 269 | 6.2% | 92 | 1.6% |
| 使用料・手数料 | 139 | 137 | 161 | 166 | 165 | 3.8% | 159 | 2.7% |
| 事業等収入 | 43 | 53 | 35 | 36 | 54 | 1.3% | 186 | 3.2% |
| 行政経常収入 | 3,881 | 3,806 | 3,829 | 4,152 | 4,314 | 100.0% | 5,838 | 100.0% |
| 人件費 | 1,249 | 1,148 | 1,211 | 1,208 | 1,213 | 28.1% | 1,147 | 19.6% |
| 物件費 | 810 | 788 | 769 | 800 | 862 | 20.0% | 1,045 | 17.9% |
| 維持補修費 | 41 | 65 | 42 | 27 | 31 | 0.7% | 62 | 1.1% |
| 扶助費 | 497 | 486 | 512 | 488 | 509 | 11.8% | 821 | 14.1% |
| 補助費等 | 568 | 557 | 613 | 682 | 713 | 16.5% | 1,023 | 17.5% |
| 繰出金(建設費以外) | 516 | 567 | 498 | 584 | 593 | 13.8% | 788 | 13.5% |
| 支払利息 (うち一時借入金利息) | 57 (-) | 54 (-) | 50 (-) | 45 (-) | 40 (-) | 0.9% | 71 (0) | 1.2% |
| 行政経常支出 | 3,738 | 3,665 | 3,695 | 3,834 | 3,962 | 91.9% | 4,957 | 84.9% |
| 行政経常収支 | 143 | 140 | 134 | 318 | 351 | 8.1% | 882 | 15.1% |
| 特別収入 | 123 | 133 | 92 | 71 | 65 | | 96 | |
| 特別支出 | 98 | 7 | 7 | 14 | 4 | | 34 | |
| 行政収支(A) | 168 | 266 | 219 | 375 | 412 | | 943 | |
| ■投資活動の部■ | | | | | | | | |
| 国(県)支出金 | 327 | 666 | 215 | 103 | 96 | 88.1% | 394 | 55.8% |
| 分担金及び負担金・寄附金 | 2 | 2 | 3 | 1 | 1 | 0.8% | 21 | 3.0% |
| 財産売却収入 | 3 | 28 | 14 | 0 | 6 | 5.1% | 23 | 3.2% |
| 貸付金回収 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2.8% | 32 | 4.5% |
| 基金取崩 | 92 | 111 | 27 | 14 | 3 | 3.2% | 236 | 33.5% |
| 投資収入 | 427 | 811 | 261 | 122 | 109 | 100.0% | 706 | 100.0% |
| 普通建設事業費 | 812 | 1,153 | 567 | 366 | 353 | 324.9% | 1,182 | 167.4% |
| 繰出金(建設費) | 17 | 20 | 49 | 42 | 45 | 41.2% | 25 | 3.5% |
| 投資及び出資金 | - | - | - | - | - | 0.0% | 46 | 6.5% |
| 貸付金 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0.2% | 34 | 4.9% |
| 基金積立 | 5 | 5 | 4 | 7 | 22 | 20.4% | 280 | 39.6% |
| 投資支出 | 834 | 1,179 | 620 | 416 | 420 | 386.6% | 1,567 | 221.9% |
| 投資収支 | ▲407 | ▲368 | ▲359 | ▲293 | ▲312 | ▲286.6% | ▲861 | ▲121.9% |
| ■財務活動の部■ | | | | | | | | |
| 地方債 (うち臨財債等) | 507 (305) | 364 (315) | 389 (304) | 350 (314) | 304 (245) | 100.0% | 642 (224) | 100.0% |
| 翌年度繰上充用金 | - | - | - | - | - | 0.0% | - | 0.0% |
| 財務収入 | 507 | 364 | 389 | 350 | 304 | 100.0% | 642 | 100.0% |
| 元金償還額 (うち臨財債等) | 333 (153) | 290 (169) | 301 (170) | 316 (176) | 339 (190) | 111.3% | 671 (195) | 104.4% |
| 前年度繰上充用金 | - | - | - | - | - | 0.0% | - | 0.0% |
| 財務支出(B) | 333 | 290 | 301 | 316 | 339 | 111.3% | 671 | 104.4% |
| 財務収支 | 174 | 74 | 88 | 34 | ▲34 | ▲11.3% | ▲28 | ▲4.4% |
| 収支合計 | ▲65 | ▲27 | ▲52 | 116 | 66 | | 54 | |
| 償還後行政収支(A-B) | ▲165 | ▲24 | ▲82 | 59 | 73 | | 272 | |
| ■参考■ | | | | | | | | |
| 実質債務 (うち地方債現在高) | 4,045 (4,370) | 4,596 (4,444) | 4,755 (4,532) | 4,599 (4,566) | 4,436 (4,532) | | 2,965 (6,506) | |
| 積立金等残高 | 1,191 | 1,086 | 1,011 | 1,119 | 1,204 | | 3,654 | |

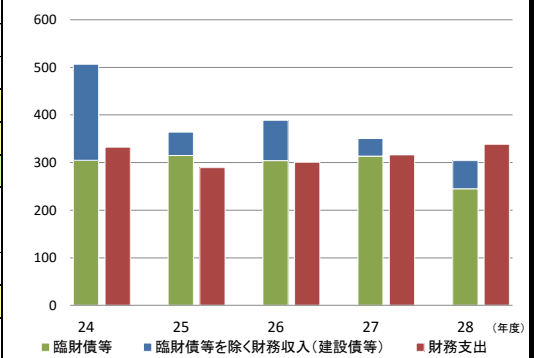
行政経常収入・支出の5カ年推移



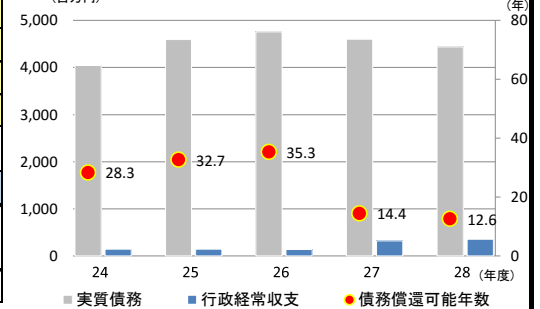
投資収入・支出の5カ年推移



財務収入・支出の5カ年推移



実質債務・債務償還可能年数の5カ年推移



◆ヒアリングを踏まえた総合評価

◎債務償還能力について

債務償還能力は、債務償還可能年数及び債務償還可能年数を構成する実質債務月収倍率、行政経常収支率を利用して、ストック面（債務の水準）とフロー面（償還原資の獲得状況）の両面から分析したものである。

①ストック面

実質債務月収倍率は、直近5年間(平成24～28年度)をみると、12.3月～14.8月の範囲で推移し、平成28年度では12.3月と基準値である18.0月未満となっていることから、債務高水準の状況にはない。

なお、平成27年度での数値比較にはなるが、貴町の実質債務月収倍率(13.2月)は、全国平均(8.2月)や類似団体(町村Ⅲ-2)平均(7.1月)と比較すると上回っている。

②フロー面

行政経常収支率は、直近5年間をみると、3.5%～8.1%の範囲で推移し、平成28年度で8.1%と基準値である0.0%超10.0%未満の範囲にあるが、債務償還可能年数(後述)が12.6年と基準値である15.0年未満であることから、収支低水準の状況にはない。

なお、平成27年度での数値比較にはなるが、貴町の行政経常収支率(7.6%)は、全国平均(14.7%)や類似団体平均(13.8%)と比較すると下回っている。

【債務償還能力】

①のストック面が債務高水準の状況にはないほか、②のフロー面が収支低水準の状況にはないことから、債務償還能力は留意すべき状況にはないと考えられる。

ストック面とフロー面を組み合わせた指標である債務償還可能年数は、直近5年間をみると、12.6年～35.3年の範囲で推移し、平成28年度では12.6年と基準値である15.0年未満となっている。

なお、平成27年度での数値比較にはなるが、貴町の債務償還可能年数(14.4年)は、全国平均(6.2年)や類似団体平均(5.7年)と比較すると上回っている。

◎資金繰り状況について

資金繰り状況は、積立金等月収倍率と行政経常収支率を利用してストック面（資金繰り余力の水準）及びフロー面（経常的な資金繰りの余裕度）の両面から分析したものである。

①ストック面

積立金等月収倍率は、直近5年間をみると、3.1月～3.7月の範囲で推移し、平成28年度では3.3月と基準値である3.0月以上となっていることから、積立低水準の状況にはない。

なお、平成27年度での数値比較にはなるが、貴町の積立金等月収倍率(3.2月)は、全国平均(7.4月)や類似団体平均(7.3月)と比較すると下回っている。

②フロー面

「◎債務償還能力について」②フロー面のとおり。

【資金繰り状況】

①のストック面が積立低水準の状況にないほか、②のフロー面が収支低水準の状況にないことから、資金繰り状況は留意すべき状況にはないと考えられる。

＜ 参考 ＞

1 財務上の問題把握の診断基準

| 財務上の問題 | 定義 |
|--------|---|
| 債務高水準 | ① 実質債務月収倍率24ヶ月以上 ② 実質債務月収倍率18ヶ月以上かつ債務償還可能年数15年以上 |
| 積立低水準 | ① 積立金等月収倍率1ヶ月未満 ② 積立金等月収倍率3ヶ月未満かつ行政経常収支率10%未満 |
| 収支低水準 | ① 行政経常収支率0%以下 ② 行政経常収支率10%未満かつ債務償還可能年数15年以上 |

2 財務指標の算式

- ・債務償還可能年数 = 実質債務 ÷ 行政経常収支
- ・実質債務月収倍率 = 実質債務 ÷ (行政経常収入 ÷ 12)
- ・積立金等月収倍率 = 積立金等 ÷ (行政経常収入 ÷ 12)
- ・行政経常収支率 = 行政経常収支 ÷ 行政経常収入

※実質債務 = 地方債現在高 + 有利子負債相当額 - 積立金等

積立金等 = 現金預金 + その他特定目的基金

現金預金 = 歳計現金 + 財政調整基金 + 減債基金

◎財務の健全性等に関する事項

【財務上の問題が解消した理由・背景】

1 収支低水準の解消について

(1) 過去、収支低水準となっていた理由・背景

平成24年度：行政経常収支率3.7%、債務償還可能年数28.3年

平成25年度：行政経常収支率3.6%、債務償還可能年数32.7年

平成26年度：行政経常収支率3.5%、債務償還可能年数35.3年

・行政経常収支率が10.0%を下回り、債務償還可能年数が15.0年以上となった(平成23年度：11.7年→平成24年度：28.3年)ことから、収支低水準となった。

これは、雇用対策事業の終了に伴う県支出金の減少、土地価格の下落修正などに伴う固定資産税の減少、障害者自立支援法の改正による社会福祉費増加に伴う扶助費の増加などにより行政経常収支が減少したためである。

(2) 現在、収支低水準を解消した理由・背景

平成27年度：行政経常収支率7.6%、債務償還可能年数14.4年

・行政経常収支率が10.0%を下回ったものの、債務償還可能年数が15.0年を下回ったことから、収支低水準を解消した。

これは、地方交付税の算定にあたって人口減少等特別対策事業費が創設されたことにより地方交付税が増加したことや、「山北駅北側小さな拠点づくり事業」の実施による地方創生交付金(国支出金)が増加したことに加え、消費税率引き上げに伴う地方消費税交付金の増加などにより行政経常収支が大幅に増加したためである。

【今後の見通し】

1 収支計画策定の有無及び計画名

該当なし

2 ヒアリングに基づく今後の見通し

4指標値(債務償還可能年数、実質債務月収倍率、積立金等月収倍率、行政経常収支率)の見通しを判断することができないが、ヒアリングにより下記の内容を確認した。

(1)ストック面

・地方債現在高は、臨時財政対策債について満額の借入を継続していくものの、地方債発行額を元金償還額を上回らないよう抑制していくことから、減少する見通しである。

・積立金等残高は、スマートインターチェンジ整備に伴い、財政調整基金の取崩しが必要となるため、減少する見通しである。

地方債現在高、積立金等残高がともに減少する見通しであるものの、積立金等減少幅が地方債現在高の減少幅を上回る見通しであることから、実質債務は増加する見通しである。

(2)フロー面

・行政経常収入は、人口減少による個人町民税の減少や、地価下落に伴う固定資産税の減少等により、地方税の減少を見込んでいることから、減少する見通しである。

・行政経常支出は、下水道特別会計への繰出金については、平成30年度以降3年ごとに料金改定を予定していることから減少が見込まれるものの、就学援助費の増による扶助費の増加や少子高齢化に伴う介護保険事業特別会計及び後期高齢者医療特別会計に対する繰出金の増加を見込んでいることから、増加する見通しである。

このような状況から、行政経常収支は減少する見通しである。

【その他の留意点等】

1 行政経常収支率について

平成28年度の行政経常収支率は、8.1%と10.0%を下回っており、収支低水準ではないが、行政経常収支率がやや低い。

(1) 行政経常収支率がやや低いことの主たる要因

地方税の減少、補助費等の増加、操出金(建設費以外)の増加、国(県)支出金等の減少と考えられる。

(扶助費の増加に対して見合いとなる国(県)支出金等の増加の影響を除いた場合)

(2) 分析方法

当該要因は、平成28年度と平成19年度以降で行政経常収支率が10.0%を上回っている直近の年度を比較し、行政経常収支率の減少に大きく影響を与えた科目を分析したものである。

(3) 科目別の増減額及び増減の理由・背景

① 科目別の増減額

比較対象年度である平成22年度から平成28年度までの科目別の増減額で主なものは、地方税の減少(▲237百万円)、補助費等の増加(+127百万円)、操出金(建設費以外)の増加(+95百万円)、国(県)支出均等の減少(▲52百万円)となっている。

行政経常収支の減少に与えた割合は、地方税の減少は39%、補助費等の増加は21%、操出金(建設費以外)の増加は16%、国(県)支出均等の減少は9%となる。

② 科目別の増減の理由・背景

・地方税の減少の理由・背景は、少子高齢化に伴い納税義務者が減少していることなどによる個人住民税の減少や、土地価格の下落修正などによる固定資産税の減少による。

・補助費等の増加の理由・背景は、各種助成制度の見直しや縮小が難しいなかで、ふるさと納税に伴う返礼費の増加による。

・操出金(建設費以外)の増加の理由・背景は、医療費の増による国民健康保険事業特別会計や介護保険事業特別会計に対する操出金の増加による。

・国(県)支出金等の減少の理由・背景は、雇用対策事業の終了による県支出金などの減少による。

<行政経常収支の減少要因>

| | 【百万円】 | | | | | |
|---------------|--------------|--------------|-------------|-----|--------|----|
| | 平22 | 平28 | 増減額 | 影響額 | 割合 | 順位 |
| 地方税 | 2,025 | 1,788 | ▲ 237 | 237 | 38.7% | 1 |
| 地方譲与税・交付金 | 229 | 263 | 34 | 0 | 0.0% | |
| 地方交付税 | 1,100 | 1,131 | 31 | 0 | 0.0% | |
| 国(県)支出金等 | 324 | 271 | ▲ 52 | 52 | 8.5% | 4 |
| 分担金及び負担金・寄附金 | 35 | 269 | 235 | 0 | 0.0% | |
| 使用料・手数料 | 146 | 165 | 19 | 0 | 0.0% | |
| 事業等収入 | 72 | 54 | ▲ 18 | 18 | 2.9% | 7 |
| 行政経常収入 | 3,930 | 3,942 | 12 | | | |
| 人件費 | 1,185 | 1,213 | 29 | 29 | 4.7% | 6 |
| 物件費 | 828 | 862 | 34 | 34 | 5.5% | 5 |
| 維持補修費 | 22 | 31 | 10 | 10 | 1.6% | 9 |
| 扶助費 | 127 | 137 | 10 | 10 | 1.7% | 8 |
| 補助費等 | 586 | 713 | 127 | 127 | 20.8% | 2 |
| 操出金(建設費以外) | 498 | 593 | 95 | 95 | 15.6% | 3 |
| 支払利息 | 66 | 40 | ▲ 25 | 0 | 0.0% | |
| 行政経常支出 | 3,311 | 3,590 | 280 | | | |
| 行政経常収支 | 619 | 351 | ▲268 | 612 | 100.0% | |

平成22年度 平成28年度
行政経常収支率 14.7% 8.1%

【その他の留意点等】**2 公共施設の更新費用等について**

山北町公共施設等総合管理計画(平成29年3月策定)によれば、現有する公共施設等の更新費用は、平成69年度までの40年間で公共建築物が約210億円(年平均約5.27億円)、道路や河川、上下水道のインフラ施設が約230億円(年平均約5.75億円)、合計で約440億円(年平均約11.0億円)となり、これは、平成24年度～28年度までの過去5年間の公共施設投資的経費の年平均約10.0億円と比較すると、約1.0億円の不足が想定されている。貴町ではこれらの状況を踏まえ、本計画期間中に、施設の総量削減として延床面積1割程度(約5,000㎡)の削減、予防保全や長寿命化を進め、更新費用を年平均9.0億円に抑えることとしている。

現在、実施計画を策定中であるが、当該計画の策定にあたっては、民間企業のノウハウや資金の活用等を含め中長期的な財政状況を踏まえた計画の策定が望まれる。

3 地方創生への取組みに伴う影響について

山北町総合戦略(平成28年3月策定、計画期間:平成27～31年度)では、「山北町における安定した雇用を創出する」、「山北町に新しいひとの流れをつくる」、「山北町の若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」、「時代にあった山北らしい地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」という4つの基本目標を設定し、当該基本目標実現に向けた各種施策に取り組むこととしている。

施策のなかには、「先端産業等優良企業の誘致」(企業立地奨励措置)や「住まいづくり応援事業による支援」等といった総合定住対策の取組みが挙げられているところ、これらの施策には一般財源による手当てが必要であることから、費用対効果を踏まえながら進めることが望ましい。

【まとめ】

貴町は、人口減少による個人町民税の減少や、地価下落に伴う固定資産税の減少等により、地方税の減少が逡減していくなか、平成30年度から下水道使用料金の段階的な改定による一般会計からの繰出金の抑制に取り組もうとしている。しかしながら、補助費において各種助成制度の見直しや縮小が難しいなか、就学援助費の増による扶助費の増加、少子高齢化に伴う介護保険事業特別会計及び後期高齢者医療特別会計に対する繰出金の増加から財政状況の悪化が見込まれている。

こうしたなか、スマートインターチェンジの整備、公共施設等総合管理計画に基づく取組や、総合戦略にかかる各種施策の実施等に伴う費用等を勘案すると、引き続き財政の健全性を確保する観点から中長期的な収支計画を策定することが望まれる。